

## チームになるということ・・・

大会も間近に迫った7月初旬。保護者会からの壮行会、そして、吹奏楽部やチア部等による壮行会と多くの人から激励が届いた。3年生にとって、球場で大勢の観客の前でプレーができる最初で最後の大会だ。こんなにも応援してくれている人達がいる。応援されるチームに少しは近づけたのか。支えてくれた人、応援してくれている人への感謝と野球ができることに感謝の気持ちが湧いてきた。

7月10日、夏の大会、1回戦。相手は、県大会も常連校で昨年ベスト16まで勝ち上がった強豪、厚木北高校だ。ウォーミングアップから大きな声で気迫が伝わってくる。一気に緊張感が高まる。それに対して、金井野球部は、相手ばかり見ている選手や強がる選手もいて、浮足立っている様子だった。しかし、大きな球場の芝生の上でゆっくりとウォーミングアップをしながら、緊張から自分達を見失いつつあることに気づき、冷静に受け止めているチームの姿があった。エラーすることや打てないこともあるかもしれない。コールドで負けることもあるかもしれない・・・でも、最後の晴れの舞台、ボールに集中、プレーに集中、野球に集中しなければもったいないよね。今日はお祭りだよ。そんな言葉に表情が素直に変化していく。試合が始まり、丁寧にプレーをしていく選手達。2回いきなりチャンスが舞い込んできた。タイムリーで2点を先制。ベンチだけでなくスタンドとも一体感が生まれる。さらに集中力が高まる。しかし、さすがの強豪校。すぐさまに4点を返され、さらに次の回も失点し、4点差。このままズルズル負けてしまうのか・・・、それでも、落ち込んでいきそうな自分を我慢して、周りに声をかけていく。失敗しても次の状況をすぐに確認する。打席に入る時に応援席をみて、吹奏楽の応援のリズムにのりながら、集中力を高めていく。すると6回、7回とチャンスが巡ってきた。3年生も奮起した。この日、キャプテンはいつも以上に集中力を高めていた。長打を打ちチームに貢献する。準備や道具を運ぶこと、清掃活動、いつも1人でも黙々とこなす。周りが嫌がることを率先して行う。これまで我慢と葛藤の中、キャプテンの重責を果たしてきた。誰もが彼を人として尊敬していた。そんな彼の躍動にチームは一つになっていく。さらに途中出場の3年生がチームを声とプレーで後押しする。そして、自分ですら出番はないだろうと感じていた選手に満塁での代打。代打を考えている時にベンチ内で指導者達は選手に視線を送った。監督から「出たいか。」という言葉に「チャンスの時に出してください」と彼は即答してきた。彼は見事にタイムリーを放った。そこから一挙6点をとり、2点リードの大逆転を果たした。これまで試合中に自分の言葉を発することが苦手な選手が多く盛り上がりを持続させることが苦手なチームが、まさにお祭りのように楽しみながら、自分たちの言葉で大きな声で声をかけあう。決してイケイケで周りが見えていないわけではなく、確認の声や状況を整理する声・・・この試合で彼らはどんどん野球が上手くなってきていた。しかし、最後は力尽き、逆転をゆるし、試合は1点差で敗退という結果となった。

3年生は、やり切った表情を見せていた。その横で涙を流す2年生。大勢の保護者や応援に駆けつけてくれた人達へ胸をはって、感謝の挨拶をしている姿は、たくましく見えた。たった2時間の1試合だけでこんなにチームとして、まとまってくるのか。指導者たちもビックリするくらい素敵なチームのすがたを見せてくれた。3年生ではなく、2年生が悔し涙を流す。チームがまとまり、そのチームが次にバトンを渡す。3年生は最後に自分達だって、できるんだということを実践して見せてくれた。きっと、その背中がこれからの金井高校野球部の財産となっていくと感じる素晴らしいゲームだった。

